



Title	本ワークショップの成果と課題
Author(s)	矢元, 貴美
Citation	GLOCOLブックレット. 2012, 8, p. 122-124
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/48352">https://hdl.handle.net/11094/48352</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 本ワークショップの成果と課題

**矢元貴美** 大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程

本ワークショップ開催の成果としては、多様な立場の参加者が対話し学び合ったこと、実践を共有できる場を中立的な立場で大学が提供できたことの2点が挙げられる。日本各地で実践活動に携わる5名の方々に提供していただいた情報を、当事者、実践者、研究者という立場の異なる参加者が各自の経験と結びつけて考え、共に一つのことを作り出そうとしたことは意義深い。同じ実践者でも、普段はあまり対話する機会のない者同士、たとえば日本語教師と地域ボランティアと学校の教師のような参加者が対話できたことも大きな成果である。当事者同士が互いの経験や考えを出し合え、当事者の声が教育に携わる参加者の新しい気づきや力づけにつながる貴重な機会ともなった。地域に目を向け、協働に取り組むべきであるという認識を新たにでき、経験豊かな参加者からは、経験の浅い参加者や若い参加者の今後の取り組みを勇気づける温かいコメントをいただいた<sup>1</sup> (GLOCOL, 2011: 84; 矢元, 2011)。会場を変えての情報交換会でも、各参加者の活動を通して感じるやりがいや悩みについて、インフォーマルな場でこそこのざっくばらんな共有やネットワーク形成ができた。

一方、課題としては、午前と午後のプログラムがつながりに欠け、当事者の声が十分に反映されなかったことや、課題を改善するための具体的な提言を行うまでには至らなかったことが挙げられる<sup>2</sup> (矢元, 2011)。これらの課題を踏まえ、今後も企画参加者の活動地域である大阪、兵庫、京都を始めとする日本各地で同様のワークショップや、本ワークショップにつながるイベント等を開催していきたい。

本ワークショップにつながる企画としては、大阪府に暮らす多文化な子どもたちの教育に携わる担い手が集まり、課題の解決策を考える「大阪の多文化な子どもの教育を考える担い手連携会議一人材活用と連携」が2011年2月26日に大阪で開催され、活発

注

1 大阪大学グローバルコラボレーションセンター (GLOCOL) (2011), 『年報2010』84ページ、及び矢元貴美 (2011)、次世代ワークショップ「トランスナショナルな子どもたちの教育を考える」報告書 [Web Page]、地域研究コンソーシアムウエブサイト、Available at [http://www.jcas.jp/about/jisedaiws\\_past.html](http://www.jcas.jp/about/jisedaiws_past.html), Accessed July 28, 2011.

2 矢元貴美 (2011), 前掲書



全体共有のようす

な議論がなされたことを加えておく。地域を絞って具体的な課題について議論を深めたいという声もあることから、一定の地域での課題を具体的に議論し、実践をより良いものにして他地域に広げることができるようなワークショップの企画も進んでいる。その他、地域の子どもたちが伝統舞踊やヒップホップダンス等を披露できるダンス大会の開催、地域の清掃活動やキャンプを通してのコミュニケーションやネットワーク形成、他大学と協働してのワークショップ

開催などの案が挙がっている。また参加者から、地域の学校や学習教室などが必要な人材にアクセスしやすくなるよう、大阪大学内にリソースセンターのような組織を設置してほしいという要望や、大学の授業でボランティア活動を単位認定するなど、学生の地域貢献活動を支援してほしいという要望も出ている。ワークショップも実践のひとつであると考え、その後の実践につなげることができる企画を考えていきたい。

本ワークショップ開催にあたっては多くの方々にご指導・ご助言・ご協力をいただきました。愛知淑徳大学文学部准教授の小島祥美先生、NPO法人「みんなのおうち」外国籍家族共生支援担当理事の小林普子先生、琉球大学法文学部准教授の野入直美先生、立命館大学先端総合学術研究科博士課程の能勢桂介さん、神奈川大学人間科学部非常勤講師の藤田美佳先生には企画に関するご助言、事前調査のご協力、およびワークショップでの情報提供をいただきました。「のしる日本語学習会」代表者の北川裕子先生には事前調査を快く受け入れていただき、企画に関するご助言をいただきました。

事前調査にあたっては、秋田では、のしる日本語学習会、能代市立湊城西小学校、藤里町立藤里小学校、沖縄ではNPO法人アメリジアンスクール・イン・オキナワ、宜野湾市教育委員会、東京ではNPO法人みんなのおうち、長野では現地の多文化共生ネットワーク、小学校、中学校、住民の方々にご協力いただきました。東大阪市立鴻池東小学校教諭の青沼宏明先生、多文化共生センター大阪事務局長の田中裕子さん、NPO法人おおさかこども多文化センター理事の坪内好子さん、京都府立鳥羽高校教諭の長谷

川千賀先生、神戸市立こうべ小学校国際教室担当の村山勇先生、大阪大学大学院生の石川朝子さん、大栗真佐美さん、末岡加奈子さん、津村樹理さん、館奈保子さん、Gutarra Gargate Disnerさんには企画・運営にあたり、ご助言・ご協力いただきました。大阪大学大学院生の下川床和真さんには当日の運営にご協力いただきました。大阪大学グローバルコラボレーションセンター特任助教の三田貴先生にはアドバイザーとして企画・運営全般にわたり多大なるご指導をいただき、大阪大学人間科学研究科教授の中村安秀先生、大阪大学グローバルコラボレーションセンター副センター長の宮原暁先生にもご助言・ご協力をいただきました。

そのほか、お名前を挙げることは差し控えさせていただきますが、ワークショップの参加者の方々、ご指導・ご助言・ご協力いただいた全ての皆様に心より感謝いたします。なお、本ワークショップは地域研究コンソーシアムおよび大阪大学グローバルコラボレーションセンターより助成を受けました。改めて深く感謝申し上げます。



参加者の集合写真